

一期生・二期生の先輩方の合格・内定体験記

◇ 鹿児島大学法文学部法経社会学科

一期生:商業科(末吉中出身)

私は高校入学当初は就職を希望していました。しかし、授業で実際の企業の経営を分析したり、経済の仕組みについて学び、世の中がどう動いているのか様々な話を聞いたりする中で、もっと経営や経済について学びたいと思うようになり、大学に進学することを決意しました。また、勉強だけでなく多種多様な価値観を持った人とのつながりの中で、自分自身の成長につなげたいという思いから、様々な学部がある鹿児島大学を進学先として選びました。

鹿児島大学は、商業科枠の推薦入試を利用して受験しましたが、センター試験が課せられていたため、2年生の3学期あたりからセンター対策を始めました。また、二次試験では小論文と面接もあったため、朝学習の時間を利用して社会・経済分野の基礎知識の勉強もしました。3年生になってからは、放課後や夏休みそして冬休みなど、可能な限り時間を割き、勉強に励みました。センター試験の出題範囲は、普段の商業科の授業ではカバーできないため、担当の先生方に補習をしていただき、学習しました。私が受験勉強をする中で一番不安だったことは、自分の勉強方法が合っているのかということでした。クラスの中でセンター試験対策をしているのは自分しかおらず、果たして自分の勉強方法が正しいのか自信が持てませんでした。なので私は、とにかくたくさん問題を解き、復習をすることを心がけました。

そうして迎えたセンター試験本番は、試験直後こそ手応えを感じることが出来ず落ち込みました。しかし、自己採点をしてみると何とか目標としていた点数をクリアすることができ、ほっとしました。しかし、センター試験から3週間後に二次試験があったため、一息つく間もなく面接・小論文対策の日々が始まりました。気持ちの切り替えが大変でしたが、二次試験までの期間が短く、焦る気持ちが強かったです。特に小論文では、なかなか自分の意見や考えが出せず、本番でも書けないのではないかと不安が常にありました。そのような中、担当してくださった先生方をはじめ、先に小論文で受験した友達にも励ましてもらい、諦めずに最後まで頑張ることができました。試験当日は「自分はここまで頑張ったから落ちたときは仕方がない」と自分



を落ち着かせ試験に挑みました。

二次試験から4日後の2月8日、HP上に掲載される合格者の受験番号の中に、自分の番号を見つけたときは本当に嬉しかったです。最初は信じられず、何度も確認したのを覚えています。翌日は、お世話になったたくさんの先生方に合格の報告をしました。「おめでとう」と心から喜んでくださり、本当に頑張った良かったと思いました。先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。

この3年間を通して私が学んだことは、何が先々自分の役に立つのか分からないので、目の前のこと、特に勉強に対して手を抜かないということです。私の場合は、勉強を頑張ることによって視野が広がり、就職から進学への切り替え、大学に合格することができました。今振り返ると、大変な時もありましたが、色々我慢して3年間頑張った良かったと心から思います。もし軽い気持ちで何となく就職を選択していたら絶対後悔していたと思います。ですから、やりたいことがまだ分からない人は特に目の前の勉強に励み、自分の進路の選択肢を広げてほしいと思います。

◇ 住友電気工業株式会社 大阪製作所

二期生:機械電子科(末吉中出身)

私は日頃から人の役に立つものを作りたいという思いがあって、求人票で企業研究をする中で、人々の暮らしに欠かすことのできない電線やケーブルの製造をしていることを知りました。電線やケーブルを製造に必要な銅荒引線や、光ネットワーク構築に必要な光ファイバ・ケーブル、自動車を作るのに重要なワイヤーハーネスなど幅広くたくさんのものを作っており、興味を持ち始めました。企業見学では、社員の方々がてきぱきと熱心に作業する姿を見て、この会社で働きたいという思いが強くなりました。

私は普段から元気で大きな挨拶をすることを心がけています。そこに自信を持って、面接に臨みました。とても緊張しましたが、かなりの時間をかけて、学校で練習してきたので、不安になることはなかったです。

就職を考えている後輩の皆さん、自分をアピールできる何かを持ってほしいと思います。日頃できる簡単なことでもいいです。そして、不安なことは自信が持てるまでしっかり練習してください。内定がもらえるよう頑張ってください。

